

聖書箇所： マルコによる福音書5章22～43節

- 22：すると、会堂管理者のひとりでヤイロという者が来て、イエスを見て、その足元にひれ伏し、
- 23：いっしょうけんめい願ってこう言った「私の小さい娘が死にかけています。どうか、おいでくださって、娘の上に御手を置いてやってください。娘が直って、助かるようにしてください。」
- 24：そこで、イエスは彼といっしょに出かけられたが、多くの群衆がイエスについて来て、イエスに押し迫った。(25)ところで、12年の間長血をわずらっている女がいた。
- 26：この女は多くの医者からひどいめにあわされて、自分の持ち物をみな使い果たしてしまっただが、何のかいもなく、かえって悪くなる一方であった。
- 27：彼女はイエスのことを耳にして、群衆の中に紛れ込み、うしろから、イエスの着物にさわった。
- 28：「お着物にさわることでもできれば、きっと直る。」と考えていたからである。
- 29：すると、すぐに、血の源がかれて、ひどい痛みがなおったことを、からだに感じた。
- 30：イエスも、すぐに、自分のうちから力が外に出て行ったことに気づいて、群衆の中を振り向いて、「誰がわたしの着物にさわったのですか。」と言われた。
- 31：そこで弟子たちはイエスに言った。「群衆があなたに押し迫っているのをご覧になっていて、それでも『だれがわたしにさわったのか。』とおっしゃるのですか。」
- 32：イエスは、それをした人を知ろうとして、見回しておられた。(33)女は恐れおののき、自分の身に起こった事を知り、イエスの前に出てひれ伏し、イエスに真実を余すところなく打ち明けた。
- 34：そこで、イエスは彼女にこう言われた。「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して帰りなさい。病気にかからず、すこやかでいなさい。」
- 35：イエスが、まだ話しておられるときに、会堂管理者の家から人がやって来て言った。「あなたのお嬢さんはなくなりました。なぜ、このうえ先生をわずらわすことがありましょう。」(36)イエスは、その話のことばをそばで聞いて、会堂管理者に言われた。「恐れなくて、ただ信じていなさい。」  
(以下省略)

メッセージ骨子：

<序論> 友人K君のお嬢さんは去年プロデビューしたばかりの新人ゴルファー。K君によると、あるオープントーナメントでは一緒の組になったアマゴルファーに調子を崩されて予選落ちし、泣きながら母親に国際電話をかけて来たかと思えば、その2週間後にはLPGAという有名なツアーで大活躍と、23歳とは思えない切り替えの速さと強靱な精神力の持ち主のようです。ところで、私達がこらえるべきところでぐっとこらえて最後に栄冠を勝ち取るためのコツを、聖書はどう教えているのでしょうか。

<ポイント1> 「主のスローアクションにイラつくな」

主はあえて私たちを待たせます。ヤイロは長血の女性に割り込まれ、待ちます(27節)。当の長血の女性もイエス様に出会うまで12年間待ちました(25節)。ラザロの姉もイエス様の到着を待ち、アブラハムは子孫繁栄の約束をもらってイサク誕生まで25年待ちました。「神は自分のことなど、どうでもいいのではないか」「この問題は神にも手に負えないのではないか」そんな思いを持つ私達に主は「恐れるな」と言われます。恐れず、信じ通す者のみが、最後に主の栄光を拝するのであります。

<ポイント2> 「主にもたらす不利益にオタつくな」

レギオンという悪霊につかれた男は癒され、そのかわり豚2千頭が海に飛び込んで死んでしまいます(5章前半)。そのイエス様を町の人々は「損失をもたらす人」として追い出しますが、われわれも「不利益」を理由にイエス様を追い出してしまうことがないでしょうか。金銭に意識を集中させて、見るべきものから目を遠ざけようとするのがサタンの手です。「神の国と神の義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」(マタイ6:33)

<ポイント3> 「万事休すから万事は始まる」

娘の死は絶望以外の何ものでもありませんが、ヤイロは「恐れなくて、ただ信じていなさい」(36節)のイエス様の言葉にかすかな希望の光を感じ、信じます。まことに「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」(ヨハネ11:25)のみ言葉どおり、まるで眠っていたかのように、娘は腹をすかした状態で生き返ります。(43節)

<まとめ> 「すべての懲らしめは、その時は喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実をむすばせます。」(ヘブル12:11) 試練には理由があり、役割を終えれば自然と収束します。主に依り頼むことは究極の知恵です。以上